

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境			0.40		-			3.4
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.49	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.49	3.0	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	衝撃音シミュレーションを実施して確認。添付資料1	3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	同上(軽量L値45~50・重量L値50~55)	3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.01	-	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.63			
1 室温		3.0	0.62	3.0	0.63			
2 外皮性能		3.0	0.37	3.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.01	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.38			
3 光・視環境		3.4	0.25	3.3	1.00			3.3
3.1 昼光利用		3.4	0.31	3.0	0.30			
1 昼光率	昼光率計算図による。添付資料2	3.0	0.57	3.0	0.50			
2 方位別開口	全体としては、東、南に開口がある。建築図参照	-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備	共用部の光庭タイプの中庭で昼光導入。建築図参照。	4.0	0.43	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		4.0	0.28	4.0	0.30			
1 昼光制御	庇、バルコニーおよびカーテンで昼光制御可能。建築図参照	4.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.14	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.26	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	4.6	1.00			4.4
4.1 発生源対策		4.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面使用。使用材料のカタログで確認。添付資料3	4.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	4.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	1/8以上の開口面積を確保。建築図参照	4.0	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	換気口は3m以上の離隔確保。機械設備図参照	3.0	0.50	5.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.3
1 機能性		3.2	0.40	3.4	1.00			3.3
1.1 機能性・使いやすさ		5.0	0.40	4.0	0.60			
1 広さ・収納性	1人あたり12㎡を確保。建築図参照	5.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	ジェイコムのプロードバンドを採用。添付資料4	4.0	-	4.0	1.00			
3 バリアフリー計画	福岡市の誘導基準水準で整備。添付資料5	5.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40			
1 広さ感・景観	居室天井高2.5m以上。建築図参照	3.0	0.02	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.02	-	-			
3 内装計画		1.0	0.97	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30	-	-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準(3-1)劣化対策等級3相当。添付資料6	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.8	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備	災害対応で設計。添付資料7	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	ジェイコムを導入。添付資料4	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			3.6	0.02	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高3.06以上で、3m以上。建築図参照。	4.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.02	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.97	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.8
1	生物環境の保全と創出	緑化率20パーセント。生態形調査等。添付資料8	5.0	0.30	-	-	5.0
2	まちなみ・景観への配慮	ICデザインガイドラインに沿った計画。添付資料9	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	通りに面して開放的な通路等確保。添付資料9	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	IC環境配慮指針に沿って計画。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	熱負荷計算書参照。	2.8	0.20	-	-	2.8
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm 非住宅 - 住宅(専有部) 0.90	4.7	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)			-	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)		省エネ計算書提出。添付資料10	4.9	1.00	-	-	
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	ジェイコムタブレットを配布。添付資料4	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	同上	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型設備を採用。添付資料11	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		フライアッシュセメント等を採用。添付資料12	5.0	0.25	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		基礎地中梁のコンクリート等で採用。添付資料13	4.0	0.25	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		持続可能な森林から産出された木材の使用比率が10%以上50%未満	4.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時におけるリサイクルを促進する対策として、評価する取組みを1	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		カタログで確認。添付資料14	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン材を採用。添付資料15	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		生き物調査など様々な取り組みを実施	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		街区単位で地表面被覆材30パーセント等、配慮。緑化率資料等参	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	ゆとりある駐車場、駐輪場計画。建築図参照	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ分別回収、のため、各階に一次ゴミ置場確保。建築図参照	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	